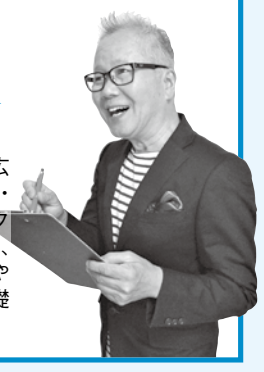


池田市民記者が行く!

市民が池田市の魅力をレポートする
“市民記者”として、地元・池田の
情報を発信します。

今月の市民記者
海嶋 達也さん

1957年生まれの現在65歳。広告代理店でテレビCMやポスター・パンフレットなどの制作ディレクターを経験してきた実績を生かし、昨年4月から市民記者に。美術や音楽、イベント参加などの趣味を礎に、池田の現在を紹介します。



取材先

立体造形やパフォーマンスなどの表現アーティスト **佐川好弘さん**

人の気持ちに代弁する、立体アート

2010年、六甲山観光

(株)と阪神電気鉄道(株)主催の「六甲ミーツ・アート芸術散歩」というアート展が、六甲山の魅力を理解してもらおうという趣旨で始まりました。毎年斬新な作品が、変化する山の風景とともに生まれ続けている同展で、池田市在住の佐川好弘さんが、2014年に「六甲ミーツ・アート大賞 準グ

ランプリ」を獲得されました。今回はその佐川さんを訪ねます。

制作を進める
テーマについて

大阪は京橋での学生生活の中で、どちらかといえば芸術方面の授業が好きだった佐川さん。大阪芸術短期大学在学中に立体アートの出会い、さまざまな作品の制作をスタートします。以前、思春期に聴いていた好きなバンドの歌詞などをヒントに、人が普段の生活の中で感じる悩みや感情を、何らかの形で表現できないものかと思い始め、普遍的に誰でも感じることの代弁”というテーマに行きつきます。それは現在も変わらず、故に、メッセージをダイレクトに文字化した

作品などは、誰にでもほえまじさと共感を与える立体オブジェとなっています。
アートの現状
一方で現在のアートシーンに関しては、「制作物の多角化も進み、シーンの状況は良くなってきている」との意見。以前より売り手や買い手が若返っていて、作品の販売などの場も増えてきているとのこと。そのようなこともとらえながら、今年も春から秋にかけて六甲ガーデンテラス・自然体感展望台 六甲枝垂れでの展示企画「シダレミュージアム」への出展が決定します。ますます活躍しています。

暮らしの現在。京橋の雑踏から逃れ、自宅の庭先にシカやイノシシが出没する自然な環境を気に入る、家族と楽しむ日々が作品のパワーとなっているようです。この池田市でも佐川さんの作品を見る日が、やってくるのが楽しみでもあります。



2014年 六甲ガーデンテラス・自然体感展望台 六甲枝垂れ「胸の土器土器」

2017年に生活の場を池田市の山手に移し、古民家を改築しながら家族4人

池田市にて



佐川好弘さん

お問い合わせ

連絡先

Note Gallery

詳細は同ギャラリーホームページをご覧ください。